

令和7年度

神戸大学大学院人文学研究科
博士課程後期課程
学生追加募集要項

神戸大学大学院
人文学研究科

R7 D 追

1 専攻, コース, 教育研究分野及び募集人員

専攻	コース	教育研究分野	募集人員
文化構造	今回の追加募集では、文化構造専攻の学生募集は行いません。		若干名
社会動態	史学	日本史学、東洋史学、西洋史学	
	知識システム論	心理学、言語学（英語学を含む）、芸術学	
	社会文化論	社会学、美術史学、地理学	

(注：上記の募集人員には、外国人特別学生を含む。)

2 出願資格

次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者（令和7年3月までに取得見込みの者を含む。）
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (5) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (6) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
- * (7) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、令和7年3月31日までに24才に達する者

* 資格審査について

上記の出願資格(7)により出願する者については、あらかじめ同資格の審査を行いますので、出願資格審査申請書等関係所定用紙を大学院人文学研究科教務学生係へ請求のうえ、令和7年2月20日（木）午後4時までに同係に提出してください。書留速達郵便とし、封筒表面に「人文学研究科博士課程後期課程資格審査申請書在中」と朱書きすること。

審査の判定は令和7年2月26日（水）までに本人宛に通知します。

- (提出書類)
- ・出願資格審査申請書（本研究科所定の用紙）
 - ・出願資格認定調書（本研究科所定の用紙）
 - ・研究計画書（本研究科所定の用紙）
 - ・最終出身学校の修了及び成績証明書
 - ・推薦書（任意—本研究科所定の用紙）
 - ・審査判定送付返信用封筒（長形3号 縦23.5cm×横12.0cm）に速達用郵便切手410円を貼付し宛先を記入してください。）

資格審査により出願資格の認定を受けた者は、出願手続を出願期間に行ってください。

(なお、この場合出願書類中の修了証明書、成績証明書は不要です。)

3 出願期間

令和7年2月28日(金)から令和7年3月3日(月)まで 必着

出願書類の受付は郵送のみとします。直接持参しても受理しません。なお、郵便事情を考慮して早めに送付してください。

郵送に際しての注意事項

- (1) 書留速達郵便とし、封筒表面に「大学院人文学研究科博士課程後期課程入学願書」と朱書きすること。
- (2) 上記出願期間に間に合うよう、検定料は最寄りの郵便局で、別添「郵便局専用払込用紙」を用いて納付してください。

4 出願手続

志願者は次の書類等を取りそろえ、神戸大学大学院人文学研究科教務学生係に提出してください。

- (1) **入学願書・履歴書・写真票** …… 用紙は本研究科で交付します。

※願書に氏名を記入する際の注意事項

日本人以外で氏名が漢字表記の場合は、パスポートと同じアルファベット表記の氏名を併記してください。

- (2) **検 定 料** …… **30,000 円** (郵便局で納付後、「振替払込受付証明書」を入学願書の指定の箇所にのり付けして提出してください。
(受付局の日付印のないものは無効です。))
- (3) **大学院修士課程又は前期課程の修了(見込)証明書**…原本を提出してください。
- (4) **出身大学大学院研究科の成績証明書**…原本を提出してください。
- (5) **論文 2 部 (コピー可)** …… 修士論文又はそれに相当する論文を提出してください。
いずれの場合も、併せて提出論文の要旨を日本語で 3,000～5,000 字程度にまとめたものを 2 部添付してください。
- (6) **研究計画書 3 部 (コピー可)** …… 本研究科のホームページからダウンロードした「研究計画書」を使用し、A4 版両面印刷で提出してください。
*「研究計画書」は以下の URL からダウンロードできます。
<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/admission/doctor.html>
- (7) **写 真 3 枚** …… 上半身脱帽正面写し、大きさは縦 4 cm×横 3 cm。出願前 3 か月以内に撮影したものを願書等所定のところに貼付してください。
- (8) **受験票送付用封筒** …… 定形封筒(長形 3 号 縦 23.5 cm×横 12.0 cm)に速達用郵便切手(410 円)を貼付し、出願者の郵便番号、住所、氏名を記入してください。
- (9) **住 所 票 3 枚** …… 本研究科交付の用紙に、出願者の郵便番号、住所、氏名

を記入してください。

- (10) **受 験 許 可 書** …… 勤務先の所属長が発行したものを提出してください。
(職業を有する者のみ)

5 入学者選考方法

選考は、口述試験、研究計画書、修士論文（又はそれに相当する論文）及び出身大学の学長又は研究科長から提出された成績証明書等の結果を総合して行います。

口述試験 令和7年3月17日（月）13:00～

口述試験は個人単位で行い、提出資料を参考に志望理由や入学後の修業計画等について質疑応答を行います。

6 合格者発表

令和7年3月21日（金）10:00（予定）

本研究科ホームページに掲載するとともに、合格者には合格通知書を郵送します。
(電話での照会には一切応じられません。)

7 授業料及び入学金

入学金 282,000 円（令和6年度実績）
授業料 前期分 267,900 円（令和6年度実績）
後期分 267,900 円（令和6年度実績）

(在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。)

8 個人情報の取扱いについて

- (1) 本研究科が保有する個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「神戸大学の保有する個人情報の管理に関する指針」等に基づき厳密に取扱います。
- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入学者の選抜（出願処理、選抜実施）、合格者発表、入学手続業務、今後の入学者選抜方法及び大学教育改善のための調査・研究のために利用します。なお、調査・研究及び結果の発表に際しては、個人が特定できないように処理します。
- (3) 出願にあたって提出された個人情報は、入学者の個人情報についてのみ入学後の学生支援関係（健康管理、授業料免除、奨学金申請）、教務関係（学籍、修学指導）等の教育目的及び授業料等に関する業務並びにこれらに付随する業務を行うために利用します。
- (4) 一部の業務を神戸大学より委託を受けた業者（以下「受託業者」という。）において行うことがあります。この場合、業務を行うために必要となる限度で受託業者に個人情報を提供しますが、守秘義務を遵守するよう指導します。

9 入試情報開示について

受験者本人（合格者は除きます。）から開示請求があれば、令和7年度入試の個人の試験成績を書留郵便により郵送します。

開示する試験成績は、総合評価（A・B・C）で通知します。

- ① 請求方法 次のものを同封のうえ、必ず受験者本人が郵送により請求してください。
 - ・令和7年度神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程追加募集の受験票
 - ・返信用封筒（長形3号 縦23.5cm×横12.0cm）460円切手貼付、返信先宛名明記
- ② 請求期間 令和7年5月1日～令和7年6月30日（必着）
- ③ 開示時期 令和7年7月1日以降順次、書留により郵送します。
- ④ 請求先 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
神戸大学大学院人文学研究科教務学生係 TEL 078-803-5595

10 麻しん（はしか）、風しんの感染予防措置

麻しん・風しんのワクチン接種（予防接種）・抗体検査に関する書類の提出について

神戸大学では「麻しん風しん登録制度」を定め、入学後のキャンパス内での麻しん・風しんの流行を防止するため、全ての新生入生に次の①、②、③のいずれかを提出していただいています。

- ① 麻しん・風しんのワクチン接種を、満1歳以降にそれぞれについて2回ずつ受けたことを証明する書類（推奨）
 - ② 過去5年以内（令和2（2020）年4月以降）に麻しん・風しんのワクチン接種を、それぞれについて1回ずつ受けたことを証明する書類
 - ③ 過去5年以内（令和2（2020）年4月以降）に受けた麻しん・風しんの抗体検査の結果が、「麻しん・風しんの発症を防ぐのに十分な血中抗体価（次項の表を参照）を有していること」を証明する書類
- * ①、②のワクチンは、麻しん・風しん混合ワクチン（MRワクチン）等の混合ワクチンでもかまいません。
 - * ①、②では、接種したワクチンの種類と接種年月日が記載されていることが必要です。
 - * 母子手帳等のワクチン接種記録や接種済証も、接種したワクチンの種類と接種年月日が記載されていれば①、②の書類として使用できます。
 - * 既往歴（かかったこと）がある場合は、③を提出するか、ワクチン接種を受けて①か②を提出してください。
 - * ③では、次項の表の血中抗体価の測定方法と測定値が記載され、測定値が同表の判定基準を満たしていることが必要です。血液検査結果票そのものの提出でもかまいません。血中抗体価が不十分な場合には、必要なワクチン接種を受け、①か②を提出してください。
 - * ①、②、③の書類の組み合わせ、例えば麻しんについては①、風しんについては③を提出してもかまいません。
 - * 麻しん・風しんの血中抗体価が不十分にもかかわらず、病気や体質等やむを得ない事情によってワクチン接種を受けられない場合には、その旨を記載した文書（医師による証明書等）を提出してください。

* 上記のいずれの書類も入学試験の合否判定に用いるものではありません。

提出期限：4月入学者は新入生健康診断実施日、10月入学者は10月入学者健康診断実施日

提出先：健康診断会場内 麻疹風疹登録受付

麻疹・風疹の発症を防ぐのに十分な血中抗体価の測定方法と判定基準

区分	測定方法	判定基準	備考
麻疹	IgG-EIA法	8.0以上の陽性	3つの測定方法のうち、いずれかで陽性
	PA法	256倍以上の陽性	
	NT法	4倍以上の陽性	
風疹	HI法	32倍以上の陽性	2つの測定方法のうち、いずれかで陽性（HI法を推奨）
	IgG-EIA法	8.0以上の陽性	

* ワクチン接種歴が条件を満たす場合や追加接種する場合は、抗体検査は不要です。

* 血中抗体価の測定は、この表の方法によってください。

* 発症を防ぐのに十分な血中抗体価は、測定方法によって異なります。また、単に抗体陽性とされる値よりは高い値なので注意してください。

* 医療機関を受診する際には、必要なワクチン接種や抗体検査を受けることができるか、予め確認してください。また、この学生募集要項を医師に提示するなどして必要な証明書を発行してもらってください。

この感染予防措置に関する問い合わせは

神戸大学保健管理センター TEL 078-803-5245

神戸大学学務部学生支援課 TEL 078-803-5219

11 注意事項

- (1) 出願手続後は、書類の記載事項等の変更、検定料の払い戻しはできません。
- (2) 志望専攻、教育研究分野等を願書所定の欄に記入してください。出願書類等に不備がある場合には、受理できないことがあるので出願前によく確認してください。
また、出願書類に不備がある場合等、願書に書かれた電話番号やメールアドレス宛に連絡をすることがあります。これらの確認漏れによる救済措置は行いませんので、ご注意ください。
- (3) 受験に関する詳細については、出願者に配付する「受験者心得」を参照してください。
- (4) 出願後に連絡先について変更が生じた場合は、速やかに連絡してください。
- (5) 受験票は令和7年3月7日（金）までに到着するよう本人現住所（連絡先）に郵送します。3月7日（金）を過ぎても到着しないときは、問い合わせてください。
- (6) 障害等があって、受験上の配慮を必要とする出願者は、出願の1か月前までに申し出てください。
(注) 事前申出は障害等のある方に神戸大学の現状をあらかじめ知っていただき、受験にあたってより良い方法を実現するためのもので、障害等のある方の受験を制限するものではありません。
申出の内容によっては対応に時間を要することもありますので、できるだけ早い時期に申し出てください。

- (7) 一度受理した出願書類は，返却いたしません。
- (8) 出願書類等に虚偽の申告をした者又は出願資格を満たすことができない者については，入学手続き完了後であっても入学を取り消すことがあります。
- (9) 合格者の入学手続きは令和7年3月下旬の予定です。(日時は，合格者に別途通知します。)

コース		教育研究分野		教員の専門分野	
名称	内容	名称	内容	教員名	研究内容
史学	<p>史学コースは、人類が培ってきた歴史学の方法を用いて歴史文化の発展に寄与することを共通の課題としている。その上で、本コースでは、歴史学研究をいっそう展開させるために、文献研究のみならず、フィールドワーク手法を用いた教育研究を行うことを重視している。すなわち日本列島・アジア・欧米における地域社会をフィールドとし、それぞれの地域に固有の社会の歴史的動態を、実地調査、史料保存、聞き取り調査などを通じて明らかにする。</p> <p>また日本列島における各地域・時代の言語、西欧におけるフランス語・ラテン語など、アジアにおける中国語・アラビア語などの諸語を、コースの所属学生が、自らの研究領域の広がりに応じて習得し、用いる。それによって各フィールドにおける高度な学術調査をおこない、また取り扱いに習熟を要する文書・写本史料などを扱う能力を養成する。さらにフィールド的手法を充実させ、歴史研究の成果を社会に還元するために、地域連携センター、海港都市研究センターと協力し、地域の歴史文化をはぐくむ史料論と方法論、歴史博物館や文書館の運営論について深化をはかる。</p> <p>このように共通の方法論を修得することにより、日本史、東洋史、西洋史という各領域の研究を深化させるとともに、これらの既存の研究領域を超えて、人間の歴史を総合的に把握し、その史的ダイナミズムを解明することを可能にする。これによって、現代社会において、グローバルな領域やローカルな領域で相互に関係しながら展開する諸現象の客観的な理解をなさしめるものである。</p> <p>以上のような教育研究によって史学コースでは、文献研究とフィールドワーク研究という実証的分析手法をもとに、過去から現代に至る人間行動を歴史的に理解し、日本および国際社会における歴史文化の形成に主体的に対応する人材を養成する。</p>	日本史学	日本史学は、古代から現代にいたる、日本列島上に展開した社会と国家を、構造的、動態的に把握することを目的とする学問である。そのためには、資史料の分析読解能力、研究史に対する深い理解、日本史学の問題を歴史学全体の中で考える広い視野、が必要である。日本史学では様々な演習を通じてこれらの能力を養成に努めるとともに、具体的なフィールドを通じて歴史像を構築する営みを重視し、地域歴史遺産を保全し、活用する能力を高める実習の充実をはかっている。	◇ 奥村 弘	日本近代地域社会形成史，歴史資料論
		東洋史学	東洋史学の研究対象は、広くユーラシア大陸を見据えるものであるが、とりわけ中華世界とイスラム世界を二本柱としたアプローチを試みている。学生は各自が選択する言語の写本、文書、档案史料等の原典を読みこなし、分析する能力をより一層高めることによって、異文化の多角的な刺激を受けつつ視野を広め、歴史学のスキルを身につけることが期待される。	◇◇ 市澤 哲	日本中世政治・社会史
		西洋史学	西洋史学には4名の専任教員が配置されており、古代から現代にいたるまで、それぞれの時代について専門的に掘り下げて研究を行うことが可能である。いずれの時代においても、研究史的な確かな把握と、自己の研究テーマをより広い問題関心や研究動向の中に位置づける幅広い知識、一次史料の読解が重要であるが、それらの習得を目指して自主勉強会、院生による読書会などが行われている。近現代においてはアメリカ、アジア、日本も含めた国際的相互関係の把握にも努めている。	古市 晃	日本古代史，王権論
				真下 裕之	南アジア史，イスラーム史
				伊藤 隆郎	アラブ史，イスラーム学
				村井 恭子	中国古代史，古代東アジア国際関係史
知識システム論	<p>知識システム論コースは、人間の知識をシステムとして理解するために、言語を含む知的活動、感性、創造性、対人関係のような、人間に固有の高次機能の解明に取り組む。現在、知性を背後で支える必須の要件が感性や感情であるという認識が深まっている。このような知識システムの複合性を解きほぐすためには、伝統的に芸術学の分野とされてきた領域を含めた、新しいタイプの教育研究プログラムが必要不可欠である。さらに、情報科学や脳科学のような隣接科学と協同することにより、知識システム全般について総合的理解を有した人材を育成する。</p> <p>そのため、心と行動の特性については、心理学実験、社会調査、行動観察のような方法を用いて、感覚や運動や思考や言語のような個人の行動メカニズム、対人関係や集団活動や文化のような複数の人間の行動メカニズムについて、実証性を重んじた教育研究をおこなう。言語現象については、音声、形態、文法、意味、語用の各側面について一般化をおこない、理論的モデルを構築することによって、自然言語の全体像を組み立てる。感性的経験については、芸術の生産と受容のシステムについての研究と教育を行い、感性や感情という知識システムの深層にある部分を解明する。</p> <p>以上の教育プログラムを通して本コースでは、言語を主とする知的活動や、行動・知性を背後で支える感情・感性を、伝統的人文学の範囲を超えた科学的視点から理解し、新たな人間観の形成に寄与する人材を養成する。</p>	心理学	心理学では、感覚、知覚、運動、学習、記憶、言語、発達、社会的行動などの人間行動と、その背景にある心理を、観察、実験、調査を通じて実証的に研究している。博士前期課程で修士論文を書いた学生は、後期課程で研究を続け専門研究者として活躍したり、前期課程修了時に就職し社会に出て活躍したりしている。人材育成にあたっては、研究成果の対外発信をとりわけ重視しており、研究成果を論文にまとめて学術誌に掲載することを前期課程から奨励し、後期課程修了までに複数の論文を国内外の学術誌に掲載するよう指導している。	野口 泰基	認知神経科学
		言語学	言語は人間の本性に関わる重要な現象である。この言語が、どのような構造を持ち、どのような機能を果たし、どのように習得され使われているのかを研究するのが経験科学としての言語学である。言語学には、日本語、英語など個別言語の研究とともに、音韻論、文法論、意味論、さらに、応用言語学やフィールド言語学までの幅広い分野が含まれる。理論的には生成文法や認知言語学などのいくつものアプローチがある。神戸大学の言語学のプログラムはこれらの幅広い分野、理論をカバーする指導・研究体制をとっている。	◇◇ 岸本 秀樹	統語論，語彙意味論
				田中 真一	音韻論，音声学
				◇◇ 野村 浩之	教育工学，日本語教育
				澤田 治	意味論，語用論
				長坂 一郎	デザイン理論
社会文化論	<p>現代の社会や文化は急激な変容を経験しつつあるが、それらは既存の文明形象や伝統社会を基盤とし、そのうえに展開している。本コースでは、社会構造と文化形象とが密接な相互関連にあるという共通の視点から、変容過程にある社会・文化形象の動態を、綿密なフィールドワークをとおして、実態的・実証的に調査分析できる能力を養成しようとするものである。そのため、質的・量的調査法や統計分析の手法など社会調査の技法をそれとして修得するとともに、地理情報を地球規模でかつ同時にローカルに解析する最先端のスキルや、地図や造形文化などの図像解析能力を修得し、それらの技法によってそれぞれのフィールド調査を深化させていく能力を養成する。フィールドでの調査と、技法・研究枠組の修得との往復運動によって、現代において変化を迫られている価値や生活規範、地域・民族の固有文化、その現代的変容、美的形象の価値やその変遷、景観保全や文化遺産をめぐるさまざまなフィールドを、内在的に解明する。本コースにおけるフィールドワークは、社会的な諸制度や空間的な配置など、文献資料に限定されない社会文化のさまざまな「形象」を調査研究の素材として考究していく。その際、フィールド的手法を方法的・内容的に充実させ深化発展させていくために、海港都市研究センターや地域連携センターと協力し、グローバルな視野のもとでの調査展開と固有の地域研究と融合させ、現代における新たな社会的規範や文化の形成に寄与できる人材を養成する。</p>	社会学	現代における芸術文化領域の多様化は、また人間の感性的経験の多様化でもある。本研究分野は、こうした多様化する芸術文化について、伝統的な学問研究方法をふまえた上で、新たな学問の地平を切り開き、来るべき芸術表現の理論的基礎づけを行うとともに広範な視覚文化の包括的研究をめざす。具体的には、芸術の各ジャンルの成立の通時的・共時的状況、素材と構成・内容と形式の相互関係、新たなメディアによる芸術形態や芸術編成の変化等を扱う。	長坂 一郎	デザイン理論
				大橋 完太郎	西洋近・現代の美学および芸術学
				小寺 里枝	芸術史・芸術理論
				白鳥 義彦	フランスを中心とする社会学
				平井 晶子	家族を中心とする経験社会学，社会人口論
				佐々木 祐	地域社会学，中南米社会研究
社会文化論	<p>美術史学は、人類の歴史的遺産として今日まで継承され、なお創造され続けている美術作品に対して、様式の分析や図像の解釈、制作過程の解明といったアプローチを行い、それらに関わる人間の営みを明らかにする学問である。地域・時代・民族による多種多様な美術の諸相の独自性を検証し、受容再生のコンテクストに基づく実証的な方法論を展開する。そのためには多くの美術作品にじかにふれることが重要であるが、本大学院では、美術館・博物館と密接に協力し、現場を重視した実践的な教育研究を行っている。</p>	美術史学	美術史学は、人類の歴史的遺産として今日まで継承され、なお創造され続けている美術作品に対して、様式の分析や図像の解釈、制作過程の解明といったアプローチを行い、それらに関わる人間の営みを明らかにする学問である。地域・時代・民族による多種多様な美術の諸相の独自性を検証し、受容再生のコンテクストに基づく実証的な方法論を展開する。そのためには多くの美術作品にじかにふれることが重要であるが、本大学院では、美術館・博物館と密接に協力し、現場を重視した実践的な教育研究を行っている。	宮下 規久朗	西洋美術史・日本近代美術史
				野田 麻美	日本美術史
		地理学	地理学は「空間」に関わる事象全般を研究対象とする間口の広い学問であるが、本研究分野はそのなかでも歴史地理学、文化・社会地理学に焦点をあてている。風景/景観やそれらが描かれた絵図や地図、場所感覚や地域アイデンティティなど生活空間における社会集団の地理的経験および文書・統計・地理情報などを対象とし、そこから様々な空間的課題を読み解いていくのである。院生の主体的なテーマおよびフィールド設定を尊重しつつ、理論・方法的な潮流を踏まえ、フィールドワークを重視した質の高い博士論文を完成できるよう指導を行う。	原口 剛	社会地理学・都市論
				菊地 真	歴史地理学，人間と地理的環境
		連携講座（文化資源論）	文化遺産の重要性に鑑み、文化財学・文化資源学に関する実証的・応用的な教育研究を行う。大和文華館、奈良国立博物館と連携し、実際の博物館運営や文化財保存方法を学ばせる。これによって、情報、人材のネットワークを構築できる学識の幅広さと応用力のある人材を養成する。博物館資料論は博物館における展示企画のための資料の収集法や調査法と、明治の古社寺保存法以来の資料の蓄積と整理法を学ぶ。レントゲン撮影や放射線分析などの最先端の科学的調査法をも合わせて修得する。文化資源保全論では文化財の概念とその修復保存法を伝統的な手法から現代的な手法までを実地演習を交えて学習する。また文化財保護法の歴史と実務を学ぶ。美術文化財論では我国の二千有余年の長い歴史の中で培われた有形文化財の歴史と日本固有の表現を、アジア各地の有形文化財との比較検討を通して研究し、各地の調査現場に向かい、実物の調査を交えたりして体験的に研究方法論を確立する。	岩井 恭二（客員）	日本古代・中世の仏教彫刻史研究
				谷口 耕生（客員）	日本古代・中世の仏教絵画史研究
留学生担当				岡野 靖子	第二言語習得，日本語教育

備考 ○印はグローバル教育センター所属教員を示す。
 ◇印は令和7年3月31日付け退職教員を示す。
 ◎印は令和7年9月30日付け退職教員を示す。
 ◇◇印は令和8年3月31日付け退職教員を示す。

